

平成29年度公立大学法人福知山公立大学業務実績報告書に係る評価結果一覧表

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置												
1 教育の質の向上に関する目標を達成するための措置												
1	新カリキュラムの成果・問題点等の検証を行い、次年度に生かす。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
2	学外から講師を招き、特別講義や講演を行い、その成果、問題点等の検証を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) 積極的に地域の人材を活用して授業、演習を行ったことは評価できるが、2つの授業、演習、前期・後期各1回ずつ計4回の授業(?)で、30名以上の外部講師を招いたとあるが、どのように実施したのかが気になる。	
3	共通教育科目の一層の充実を図る。	3	3	3	3	3	4	3	3	3.2	(D委員) 旧大学(成美大学)学生に対する教育充実を図られたことは特筆すべき点であると思われるため、評価を4とした。	
4	但馬地方を対象とした講演会を開催する。	3	3	3	3	2	3			2.8	(C委員) 地域貢献としての活動であれば大きく評価できるが、このことが学生の教養教育充実にどの程度役立ったのかがわからない。 (D委員) 業務実績内容からすれば高い評価を付与しても構わないと考えたが、年度計画において「講演会の開催」が目標となっており、回数や動員などの数値目標がないため、自己評価のとおりとした。	
5	行政機関、企業、地域団体等と連携した課外プログラムを実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) 5件のプロジェクトの参加人員を知りたい。	
6	就業体験を通じて社会を知るためのインターンシップを実施、検証する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) 京都インターンシップフェアへの参加で「一定の有用性はあった」とあるが、どのような有用性であったのか？ 年度計画に数値目標を設定することはできなかったか？ (D委員) 取り組み自体は評価できるが、「検証する」と目標で記載されていることに対し、「一定の有用性はあった」と抽象的な評価内容になっているため、自己評価どおりとした。	
7	平成28年度の検証結果を踏まえ、より充実した地域協働型実践教育を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) 報告会には地域の人々は参加したのか？	
8	ワークショップ等のグループ学修を含め、共感性を養いながら学生自らが主体的に学修を進めるアクティブ・ラーニングを推進する。 予習・復習の習慣づけを継続する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) 成果報告書をPDCAの観点からまとめたとの記述があるが、どのようなものか？	
9	シラバスに明示した各科目の概要及び到達目標、成績評価の方法と基準に沿った成績評価を行う。 また、成績評価が妥当であることを検証する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
10	GPA(成績評価係数)による学業評価を学生指導に役立てるとともに、GPAを活用した履修制度を検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
11	・新たなカリキュラム・ポリシーに基づいて作成されたシラバスの検証を行う。 ・各授業の到達目標、授業計画、成績評価の方法と基準等を明確にする。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
12	ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会を定期的に開催する(月1～2回程度)。	3	3	3	3	2	3	3	3	2.8	(C委員) 月1回の開催であれば、年間で12回ではないか？	
13	アクティブラーニングやPBL、ルーブリック評価などについての研修会、勉強会を実施する。(年3回程度)	3	3	3	3	4	3	3	3	3.2	(C委員) 年3回程度の目標が、実際には8回の実施であったので、評価を上げて良いのではないか？ 各回の教員の参加人数はどのくらいか？ (D委員) 様々な取組が行われているが、参加者数の記載や全学的な取組となっているかについての記載がないため、自己評価どおりとした。	

番号	年度計画	法人自己評価	評価委員会委員評価							平均値(参考)	評価のポイント、委員会確認事項(評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果(案)	A	B	C	D	E				
14	授業評価アンケート及びそれに対する教員側からのフィードバックを活用し、授業内容・方法等の改善、向上を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) アンケートを授業内容・方法の改善、向上に役立てることができたかどうかの検証がない。	
15	学生から評価の高い授業について、オープンキャンパス等において担当教員の模擬授業を実施し、学外者からの意見を取り込む。 学生から評価の高い授業について、教職員による授業参観を行う。	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	(C委員) 学生の授業評価は、15回の授業を通しての評価であるため、1回の授業(しかも通常の授業よりも短い模擬授業)で、その授業の本当に良いところは、何となく雰囲気はわかっても、その授業の作り込みの仕方まではわからない。 むしろ、全学のFD研究会などで、授業の工夫内容等の話を聞く方が効果があると思う。	
16	公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審する。	4	4	4	4	4	3	4	3.8	(A委員) 「適合」の認定を受けたことは、スタートに立ったと思われる事項であり、より高みを目指し努力いただきたい。 (C委員) 認証評価を受審し、以前の「不適合」から「適合」の評価を受けたことは、大きなご努力の賜物と評価することはできるが、冷静に考えれば、当然のことでもあったと考えられる。 (D委員) 「不適合」の内容と、どのような取組により「適合」の評価が得られたのかについて、具体的な記載がない状況で評価4は付与できない。		
17	大学案内や学生募集要項、ホームページ等を活用してアドミッション・ポリシーの周知を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
18	平成29年度入学試験の結果を踏まえ、地域に根ざした公立大学として、地域枠(推薦入試)を含む入学者選抜方法を検討、実施し、優秀で多様な人材の確保を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(D委員) 精力的な募集活動により、多数の志願者を確保できたことは評価できるが、H31年度以降の年度計画では、志願者数、志願倍率に加え、地域別の入学者数等の目標設定をお願いしたい。	
19	「学力の三要素」を軸とした高大接続改革の中で、とりわけ大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の具体化動向を把握する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
20	地域に根ざした公立大学として、北近畿地域を主とし、かつ全国の高校・予備校等を視野に入れて、大学概要及び学生募集情報を提供するため、各種受験媒体等の効果的活用、オープンキャンパス等の学生募集活動の充実に取り組む。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) 現段階では余裕がないから仕方がないかもしれないが、少なくとも三丹地域では、訪問しない高校はないくらいにしてほしい。 (D委員) 教職員が協力して、延べ1,000校近い高校訪問を行った等の活動は評価できる。 平成31年度計画では具体的な活動目標(高校訪問数、エリア、SNS登録者数等)を設定いただきたい。	
21	新入生アンケートを実施し、その結果を学生募集活動、広報活動に生かす。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
22	受験生、保護者、高校教員等への丁寧な情報提供を継続的に実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(D委員) 教職員が協力して、延べ1,000校近い高校訪問を行った等の活動は評価できる。 平成31年度計画では具体的な活動目標(高校訪問数、エリア、SNS登録者数等)を設定いただきたい。	
23	福知山市が設置する将来構想に関する委員会に参画するとともに、学内にチームを設け検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(A委員) 市民にとって大きな関心事であり、大学として将来構想に強力に参画していただきたい。	
24	課外活動、奨学金等経済支援、生活環境、学籍、健康管理等に関する相談、支援を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
25	学生の諸活動の意欲向上、活性化のため、学生表彰を適切に行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
26	懲戒事案発生の予防に努めるとともに、事案発生の場合には、学生の更生を支援する。	3	3	3	2	3	3	3	3	2.8	(B委員) 懲戒事案発生の予防に努めるという点では、学生の規範意識の向上を目的とした具体的な取り組みや、処分量定の基準の公開や、懲戒処分の公開基準など、予防に対する取り組みの報告がない。仮に取り組みがないのであれば、十分ではなく、評価2が相当と考える。	

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
27	福知山消防署の協力を得て消防訓練を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
28	学生に対し、事件・事故や不審者情報、台風等の気象・災害情報を適時メールで配信する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(D委員) 台風や豪雨などの大規模災害に対応するための施策について、平成31年度計画では具体的な記載があれば望ましい。 例) 安否確認システム構築の検討など	
29	退学予防システムを適切に運用し、クラス担任と学生委員会、担当職員が情報共有を行い、早期の相談・指導に努める。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
30	臨床心理士によるカウンセリングを実施する(月2回程度)。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
31	食堂の運営について、メニュー変更、価格改定などを検討し、その改善に取り組む。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
32	キャリアサポート委員会を中心として就職活動支援に取り組む。	3	3	3	3	3	4	3	3.2	(C委員) この項目は実績を読む限り積極的な取り組みを行っているように見えるが、年度計画に受講者数などを中心とする数値目標を盛り込むようにしてはどうか。 (D委員) 旧大学(成美大学)学生に対する就職支援の結果として、100%の内定を達成できたことは特筆すべきことであるため、4の評価とした。		
33	就職支援にかかるポートフォリオシステムの電子化を検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
34	学生ニーズをもとに、公務員試験対策講座等の課外講座を開講するとともに、そのあり方について検証を行う。 行政職等に就いた本学卒業者による就職講話を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
35	簿記、宅地建物取引士、旅行業務取扱管理者、ファイナンシャルプランナー等の資格取得及び就職活動を支援する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(A委員) 就職活動において、資格は自分をアピールする大きな武器になると言われている。就活生のレベルアップのため、情報提供をより強く進めていただきたい。	
36	国際交流センターを発足させ、国際交流の業務を行う。また海外の大学との提携や協定を結ぶための準備を進める。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
評定平均値		3.0	3.0									
評価5		0	0									
評価4		1	1									
評価3		34	34									
評価2		1	1									
評価1		0	0									
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置												
2 研究の質の向上に関する目標を達成するための措置												
37	「福知山公立大学研究活性化助成金」(学長裁量経費)を活用して、北近畿の地域課題の解決に資する研究を助成し、学内外の研究者・協力者等の連携を深めるとともに、研究成果をまとめる。	4	4	4	4	3	4			3.8	(C委員) 実施状況を読む限り年度計画の内容を着実に実行した程度に思える。 (D委員) 自己評価を4(年度計画を上回って実施している)とした具体的な根拠が明示されることが望ましい。	
38	京都工芸繊維大学との包括協定に基づき、地域研究やまちづくりでの共同研究と事業展開の方策を検討する。	4	4	4	4	3	4	4		3.8	(C委員) 設計の委託は29年度であったのか? 29年度であるなら4の評価も評価もあるかもしれないが、30年度であったとするなら3の評価が妥当。 (D委員) 自己評価を4(年度計画を上回って実施している)とした具体的な根拠が明示されることが望ましい。	
39	前年度に引き続き、地域課題を対象とした研究及び情報分析を行うとともに、関連機関との連携をさらに深めながら共同研究を推進する。	3	3	3	3	3	3			3.0		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
40	5市2町を中心とした北近畿地域の統計資料等を継続して収集する。更新又は新しく公表された資料は追加する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
41	電子データとして公開できる資料に関しては、公開や検索が容易になるようなシステムの導入を検討する。	3	3	3	4	3	3	3	3	3.2	(B委員) 公開や検索が容易になったという報告はないが、電子データを公開するためのシステムを検討した上で導入できたとあるので、検索が容易になったと判断できる。 導入の検討に止まらず、導入まで達成したのであれば計画を超えており、評価4に相当するのではと考える。	
42	RESASなど公開されている外部データベースの活用を検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
43	北近畿地域連携会議を組織し、その事務局を北近畿地域連携センターに置く。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0	(C委員) 年度計画の内容が軽すぎる。	
44	地域の防災と危機管理に関する研究体制のあり方について、財源も含めて検討する。	3	3	3	2	3				2.7	(B委員) 研究体制のあり方については検討ができなかったとあるので、評価3は適当ではない。評価2が相当と考える。	
45	科学研究費補助金ほか各種補助金、助成金の情報収集を図り、全学として外部資金の獲得に取り組む。	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	(A委員) 外部資金(科学研究費助成事業)獲得は外部要素もあり大変な局面もあるが、是非継続して申請応募等を進めていただきたい。	
46	京都府北部地域連携都市圏をはじめとした近隣自治体等との関係を構築し、委託事業・共同事業の獲得を推進する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) 今後の年度計画においては獲得目標などの数値目標が必要。	
47	学内研究費を均等に配分したうえで重点的な配分も行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
評定平均値		3.2	3.2									
評価5		0	0									
評価4		3	3									
評価3		7	7									
評価2		1	1									
評価1		0	0									
第4 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置												
3 地域協働(地域貢献)の質の向上に関する目標を達成するための措置												
48	多世代対象の公開講座(15回程度)、専門家・研究者を対象にしたセミナーや研究会(6回程度)、市民が講師となるゼミ(5回程度)、中学生から大学生及び社会人を対象としたキャリア講座(3回程度)を開催する。	3	3	3	3	4	3			3.3	(C委員) 年度計画の数値目標に比して大きく実績を重ねており、評価は4にしても良いのではないか。	
49	学校法人関西文理学園と連携し、高齢者を対象とした京都高齢者大学校「北部分校」を開設する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
50	地域の団体等による大学施設の利用を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) 諸団体、個人の利用などの数値目標を設定するのも良いのではないかと？	
51	北近畿地域連携センター及び市民学習・キャリア支援センターが窓口となり、教育情報や教員情報の紹介、地域への講師派遣、公開講座開催等を行い、研究成果の有効活用を積極的に図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
52	新たに改修、移転した北近畿地域連携センターを窓口とし、全学的かつ組織的な地域連携・協働体制を構築する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
53	北近畿地域連携会議での協議等をもとに、様々な機関や団体が有する知的資源、人的資源等の活用のあり方を具体的に検討する。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0	(C委員) 今年度は良いとしても、次年度以降の年度計画の設定を、もう少し具体的に書くべき。	
54	北近畿地域の人材を招聘した講義を行うなど、北近畿地域の人的資源を積極的に活用する。	3	3	3	3	3			3	3.0		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
55	北近畿地域のシンクタンクの役割を果たせるよう、全学的な取組体制を強化し、体制を構築する。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0	(C委員) 次年度以降の年度計画はもう少し詳しく書くべき。	
56	「まちかどキャンパス」の設置及び授業や市民講座等で活用について検討する。	3	3	3	3	4	3	3	3	3.2	(C委員) 次年度以降、年度計画をさらに具体的に記述すべきであるが、本年度の中では、具体的、かつ積極的な展開を図ったと評価できる。	
57	新たに改修、移転した北近畿地域連携センターを窓口とし、全学的かつ組織的な地域連携・協働体制を構築する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
58	北近畿地域の行政機関、企業、地域団体や医療機関等と連携し、それぞれの政策的課題に関する研究を実施して、地域の課題解決への取り組みを推進する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
59	北近畿地域の高校等と連携した教育研究を検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
60	(再掲55) 北近畿地域のシンクタンクの役割を果たせるよう、全学的な取組体制を検討し、体制を構築する。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0		
61	北近畿地域の行政機関、企業、金融機関、医療機関等と連携を図り、学生のキャリア形成に資する地域協働型実践教育に取り組み、就職先の確保に繋げる。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
62	北近畿地域を中心にインターンシップ等の受入先の拡充・開拓を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
63	地元企業等の学内説明会を開催する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
評定平均値		3.2	3.2									
評価5		0	0									
評価4		3	3									
評価3		13	13									
評価2		0	0									
評価1		0	0									
第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置												
64	理事長（学長）の迅速な意思決定を補佐するため、運営会議を毎週開催する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
65	教授会、各種委員会、各種センターが緊密な連携のもと大学運営に取り組む。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
66	全学協議会を開催する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) 全学協議会の目的と役割がよくわからない。実情は研修会か？	
67	2年目を迎え、課題の整理と解決に取り組む。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
68	法人経営・大学運営の重要な課題について、的確かつ機動的にプロジェクトチームやタスクフォースを立ち上げて対応する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
69	福知山市議会、公立大学法人福知山公立大学評価委員会、高校等と意見交換を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
70	アドバイザー・コミッティを開催し、外部有識者の意見を取り込む。	3	3	3	3	4	3	3	3	3.2		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
71	北近畿地域連携会議を定期的に開催し、大学と地域の連携のあり方について意見交換をする。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0	(C委員) 次年度以降の年度計画の書き方をさらに具体的に書くことが必要。	
72	広く市民、各種団体等との交流を図る。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0	(A委員) 本学の活動報告会また定例協議会の継続的な開催をお願いする。 (C委員) 次年度以降の年度計画の書き方を工夫する必要がある。年度計画を簡単に書いて、実績で色々書けば、大きな実績を残したように見える。市民との交流とあるが、研究プロジェクト成果発表会、活動報告会などには、どのくらいの市民が集まったか？ (D委員) 年度計画策定が漠然としたものになっているため、平成31年度年度計画では、計画と実績との関係について正しく評価できるような目標設定をしてほしい。	
73	様々な機会において、外部意見の取り込みに努める。	4	4	4	4	4	4	4	4	4.0	(A委員) 本学の活動報告会また定例協議会の継続的な開催をお願いする。 (C委員) 年度計画をもう少し具体的に書いてほしい。 (D委員) 年度計画策定が漠然としたものになっているため、平成31年度年度計画では、計画と実績との関係について正しく評価できるような目標設定をしてほしい。	
74	理事会、経営審議会、教育研究審議会における外部理事、外部委員、監事の意見等を法人経営、大学運営に反映する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
75	(再掲12) ファカルティ・ディベロップメント (FD) 委員会を定期的に開催する(月1~2回程度)。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
76	(再掲13) アクティブラーニングやPBL、ルーブリック評価などについての研修会、勉強会を実施する。(年3回程度)	3	3	3	3	4	3	3	3	3.2	(C委員) 各研修への参加人数が欲しい。計画では年3回程度の開催としているが、8回の研修を実施しているのは評価できる。	
77	(再掲14) 授業評価アンケート及びそれに対する教員側からのフィードバックを活用し、授業内容・方法等の改善、向上を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
78	(再掲15) 学生から評価の高い授業について、オープンキャンパス等において担当教員による模擬授業を実施し、学外者からの意見を取り込む。 学生から評価の高い授業について、教職員による授業参観を行う。	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	(C委員) 学生の授業評価は、15回の授業を通しての評価であるため、1回の授業(しかも通常の授業よりも短い模擬授業)で、その授業の本当に良いところは、何となく雰囲気はわかっても、その授業の作り込みの仕方まではわからない。 むしろ、全学のFD研究会などで、授業の工夫内容等の話を聞く方が効果があると思う。	
79	スタッフ・ディベロップメント (SD) 研修会等を定期的に開催し、教職員の資質向上に取り組む。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
80	事務職員向けの研修会、勉強会を計画的に行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
81	人事評価制度について、事務職員は試行し、教育職員については検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
82	教育・研究や地域貢献の実績やイベント情報をメディアに情報提供するとともに、ホームページやSNSで公開する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) 情報発信の実績は詳しく述べられており、よくわかるが、加えて、新聞やテレビ、ラジオ等々においてどれだけ取り上げられたかの実績があると、実績評価しやすい。	

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
83	公開講座等やオープンキャンパス等のイベントにおいてアンケートを実施し、市民ニーズの把握に努める。	4	4	4	3	3	4	4	3.6	(B委員) H28年度の年間計画では具体的なイベント名をあげられてなかったが、H29年度は公開講座とオープンキャンパスをあげて市民ニーズの把握に努めるとしておられる。したがって、それらは重点計画なのだろうと認識したが、それらのアンケート実施の記述がない。 市民ニーズの把握という中期目標からすると、高い評価が相当すると思う。しかし、83番の年度計画に対する評価という点では、仮に未実施であれば、事情も分からないので高評価は難しいかと思う。 (C委員) 福知山市民へのニーズ把握が弱い。また、講演会などのアンケートは、ニーズ把握ではなく、講演の満足度を測るもので、別途、ニーズの把握を行う必要がある。 また、プロジェクトの成果発表会で、具体的に市民のどのようなニーズを把握しようとしているかがわからない。 非常に重要と考えられる企業のニーズなどが把握されていない。		
84	(再掲74) 理事会、経営審議会、教育研究審議会において、外部理事、外部委員、監事の意見等を法人経営、大学運営に反映する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
85	市民向け報告会を開催する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
86	ステークホルダーからの情報収集、整理、共有を図る。とりわけ高校教員から進路や受験の情報を積極的に収集する。	3	3	3	3	3		3	3.0			
87	(再掲81) 人事評価制度について、事務職員は試行し、教育職員については検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
88	執行状況を毎月把握し、適切な予算執行をする。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
89	適切な発注を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
90	経費支出及び研究費支出のガイドラインを周知するとともに適正に運用する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
91	公益財団法人大学基準協会による、平成29年度の認証評価を受審する。	4	4	4	4	4	3	4	3.8	(A委員) 「適合」の認定を受けたことは、スタートに立ったと思われる事項であり、より高みを目指し努力いただきたい。 (D委員) 「不適合」の内容と、どのような取組により「適合」の評価が得られたのかについて、具体的な記載がない状況で評価4は付与できない。		
92	運営会議、教授会等を通じて、大学運営の維持・向上を図る。	3	3	3	3		3	3	3.0			
93	前学期終了後に学生数の増加の影響を検証し、課題について対応を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(A委員) 適正な人員(教員・職員を含む)の配置は、創生期の大学にとって(新学部の構想もあり)、大きな課題であると考えられる。平成30年5月1日時点において、前年同月比で教員が2名減となっているため、早急な採用と配置に今後を見据え努力をいただきたい。		
94	効率的な運営を図るため、多様で柔軟な契約形態を検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
評定平均値		3.1	3.1									
評価5		0	0									
評価4		5	5									

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
	評価3	25	25									
	評価2	1	1									
	評価1	0	0									
第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置												
95	施設・設備が学生数の増加に対応できているかを検証する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
96	(再掲23) 福知山市が設置する将来構想に関する委員会に参画するとともに学内にチームを設け検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
97	(再掲88) 執行状況を毎月把握し、適切な予算執行をする。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
98	(再掲89) 適切な発注を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
99	(再掲90) 経費支出及び研究費支出のガイドラインを周知するとともに適正に運用する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
100	(再掲81) 人事評価制度について、事務職員は試行し、教育職員については検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
101	地域に根ざした公立大学として、福知山市及び隣接地域の高校並びに前年度志願者があった北近畿地域の高校に対して年3回の訪問を目途とし、志願者増に努める。	3	3	3	2	3	3	2	2.6		(B委員) 年度計画において「志願者増に努める」を設定し、その具体的な手立てとして、A「福知山市及び隣接地域の高校」とI「前年度志願者があった北近畿地域の高校」に対して年3回の訪問を目指すとして計画されている。それならば、AとIの2つに対して実績を確認し、その達成度合いを中心に付随することを加えて自己評価すべきと考える。 その観点からすると、評価3は適当ではない。 (E委員) 地域に根ざした公立大学として、福知山市及び隣接地域の高校からの志願者を増やすための努力とより一層の熱意を期待し「2」とさせていただきます。	
102	オープンキャンパスを開催し、大学の特色をわかりやすく来場者に伝える。受験生に限らず参加できる内容を企画し実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
103	志願者データを分析し、次年度の学生募集活動に反映する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
104	(再掲21) 新入生アンケートを実施し、その結果を学生募集活動、広報活動に生かす。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
105	各種受験媒体、ホームページを効果的に活用した広報活動を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
106	高校と連携し、出張講義(10回程度)を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
107	地域活性化コンテスト「田舎力甲子園」を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(A委員) 「田舎力甲子園」を継続されることに大変感心を持っている。各メディアが取り上げることで、当大学を全国にアピールし、情報を発信することが出来ると思う。継続的な開催を希望する。 (C委員) 国や府の支援を受け、全国的な開催をしたのは評価できる。なぜ4評価でなかったのか？	
108	他の国公立大学の動向を把握し、必要に応じて変更を検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
109	適切な料金等を設定し、学外者による施設利用を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
110	国、地方公共団体等の外部資金の獲得を推進するための制度設計を行う。	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	(A委員) 外部資金(科学研究費助成事業)獲得は外部要素もあり大変な局面もあるが、是非継続して申請応募等を進めていただきたい。	
111	(再掲45) 科学研究費補助金ほか各種補助金、助成金の情報収集を図り、全学として外部資金の獲得に取り組む。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
112	様々な外部資金に関する情報を定期的に収集、整理し、教員に提供する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
113	科学研究費補助金の審査員経験者による説明会を実施する。	2	2	2	2	2	2	2	3	2.2		
114	教員組織や事務組織、施設、設備等学生数の増加に対応できているか検証する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(A委員) 適正な人員(教員・職員を含む)の配置は、創生期の大学にとって(新学部の構想もあり)、大きな課題であると考え。平成30年5月1日時点において、前年同月比で教員が2名減となっているため、早急な採用と配置に今後を見据え努力をいただきたい。	
115	(再掲88) 執行状況を毎月把握し、適切な予算執行をする。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
116	(再掲89) 適切な発注を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
117	(再掲90) 経費支出及び研究費支出のガイドラインを周知するとともに適正に運用する。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
118	執行状況を把握するとともに発注実績を共有し、コスト低減を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
評価平均値		2.9	2.9									
評価5		0	0									
評価4		0	0									
評価3		22	22									
評価2		2	2									
評価1		0	0									
第7 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置												
119	年度計画により計画的に業務運営を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
120	平成28年度の業務実績を年度計画に定めた項目ごとに明らかにし、公立大学法人福知山公立大学評価委員会の評価を受ける。	3	3	3	3	3	3	3	2	2.8	(E委員) 毎年度、多くの計画実施がされており、敬意を表するところである。その一方で、年度計画は、中期目標を達成するための中期計画の経過途中の1年であり、計画実施がいかに中期計画の実施に繋がり、中期目標達成に向けてどう関わっているかという点を意識して実施状況を記載頂けたら、実施されている内容が理解しやすくなると考える。来年度以降の実績評価調書の記載方法を検討頂きたい。	
121	平成28年度の業務実績について、公立大学法人福知山公立大学評価委員会の評価を受け、評価結果を踏まえて業務運営や教育研究活動等の向上を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0		

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
122	(再掲16) 公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審する。	4	4	4	4	4	3	4	3.8	(A委員) 「適合」の認定を受けたことは、スタートに立ったと思われる事項であり、より高みを目指し努力いただきたい。 (D委員) 「不適合」の内容と、どのような取組により「適合」の評価が得られたのかについて、具体的な記載がない状況で評価4は付与できない。		
123	平成28年度に行った自己点検・評価の結果を踏まえ、運営会議、教授会等を通じて、教育研究水準の向上を図る。	3	3	3	3		3	3	3.0			
124	内部質保証システムを適切に運用する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
125	年度計画、事業報告書、財務諸表、自己点検による評価結果については作成後、認証評価機関による評価結果は受領後、遅滞なくホームページ等を通じて公表する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
126	法令で公表義務がある事項に限らず、大学の活動状況をホームページ等を通じて積極的に公表する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
127	大学の基本理念、特色等の周知を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
128	広報委員会、入試委員会、教務委員会及び北近畿地域連携センターでそれぞれで得られる情報を共有し、計画的な広報活動に努める。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
129	調査やデータ分析等を活用するとともに目的及び効果を考慮し、計画的に広報活動に努める。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
130	マスメディア等との連絡体制を確立するとともに、情報提供及びホームページ等を通じた時機を逸しない広報活動に努める。	3	3	3	3	3	3	3	3.0	(C委員) プレスリリースを行った結果、実際の掲載に至ったのが何件あるかがわかると評価しやすい。		
評定平均値		3.1	3.1									
評価5		0	0									
評価4		1	1									
評価3		11	11									
評価2		0	0									
評価1		0	0									
第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置												
131	内部監査を実施し、業務執行の適正化と効率化を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
132	教職員、学生に対してハラスメント防止に関する研修を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
133	研究不正防止に関する研修を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
134	研究倫理に関する研修を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
135	学生、教職員に対して公益通報制度の周知を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
136	資産の把握を適切に行う。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
137	資産台帳をもとに効率的かつ確実な運用、管理を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
138	メディアセンターの改修を行う。	3	3	3	3	4	3	3	3.2	(C委員) 年度計画では改修を行う旨のみが記されているが、市民や企業も利用できる配慮がされており、評価できる。		
139	駐輪場の整備を行う。	3	3	3	3		3	3	3.0			
140	防災避難訓練を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			

番号	年度計画	法人 自己評価	評価委員会委員評価							平均値 (参考)	評価のポイント、委員会確認事項 (評価できる項目、課題となる項目)	備考
			評価結果 (案)	A	B	C	D	E				
141	地域防災との連携を検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
142	AED研修を実施する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
143	監視カメラの導入及び夜間利用のための街灯を設置することにより、学内のセキュリティ環境を整備する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
144	健康診断、ストレスチェック、職場巡回(月4回程度)を実施し、必要に応じて改善する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
145	教職員の時間外勤務状況を把握し、状況により改善を促す。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
146	セキュリティポリシーの運用を徹底する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
147	セキュリティポリシーに準じた情報システム運用規則を整備し、情報システムの円滑かつ安全な運用を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
148	情報セキュリティに関する研修を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
149	学内ネットワーク環境のセキュリティ強化を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
150	クールビズを実施し、省エネルギーに取り組む。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
151	会議等でプロジェクターを活用し、ペーパーレス化を推進する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0			
152	不要な照明及び冷暖房は使用しないようルールを定める。	3	3	3	3	3	3		3.0			
評定平均値		3.0	3.0									
評価5		0	0									
評価4		0	0									
評価3		22	22									
評価2		0	0									
評価1		0	0									

第14 福知山市の規則で定める業務運営に関する事項

153	地方創生拠点整備交付金により、メディアセンターの改修を行う。これに併せ、備品等も購入し、利用環境の充実、機能強化を図る。	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
154	(再掲139) 駐輪場の整備を行う。	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
155	(再掲143) 監視カメラの導入及び夜間利用のための街灯を設置することにより、学内のセキュリティ環境を整備する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
156	1号館、2号館の現状稼働していない施設等についての活用及び改修の検討を行う。	3	3	3	3	3			3.0		
157	施設及び設備について点検を行い、点検結果を踏まえた適切な維持管理に努める。	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
158	(再掲81) 人事評価制度については、事務職員は試行し、教育職員については検討する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
159	長期の採用計画は、将来構想を検討する中で策定する。	3	3	3	3	3	3	3	3.0		
評定平均値		3.0	3.0								
評価5		0	0								
評価4		0	0								
評価3		7	7								
評価2		0	0								
評価1		0	0								